

報告日：平成 年 月 日

平成 年度 目的・目標プログラム一覧表

事業所名		
目的	年度目標	実施手段
電気使用量の削減の推進	省エネ活動の啓発及び実施	
燃料使用量の削減の推進	省エネ活動の啓発及び実施	
車両燃料使用量の削減等の推進	省エネ活動の啓発及び実施	
廃棄物排出量の削減の推進	3 R活動の啓発及び実施	

※上記の一覧にある以外にも、水道使用量の削減や用紙類使用量の削減、グリーン購入の推進など環境負荷の低減のための取組も実践していきましょう。

平成 年度 目的・目標プログラム一覧表（記入例）

事業所名	〇〇株式会社	
目的	年度目標	実施手段
電気使用量の削減の推進	省エネ活動の啓発及び実施	<ul style="list-style-type: none"> ○照明の適正な使用 <ul style="list-style-type: none"> (1) 好天時の日中の窓際の照明の消灯 (2) 書庫・保管庫・湯沸室及びトイレなどの断続的な使用箇所の照明の的確な点灯・消灯 (3) 通行に支障がない範囲での廊下、階段等の照明の消灯 (4) 照明器具の清掃やランプの適正な時期での交換 (5) 照明器具の更新の際の省エネタイプの器具の購入 (6) 蛍光灯の数の削減 (7) 昼休み・残業時間等の不必要な照明の消灯 (8) 屋外灯の点灯時間の短縮 ○事務機器の適正な使用 <ul style="list-style-type: none"> (1) O A 機器の効率的な使用と、昼休みなど長時間使用しないときの主電源OFFによる待機電力の削減 (2) パソコンのスクリーンセーバー機能のOFFによる消費電力の削減 (3) 電気製品の台数の削減 (4) パソコン等事務機器の省電力タイプの導入 (5) 電気製品使用後はコンセントを抜くなどの電源管理の徹底 ○冷暖房の適切な使用 <ul style="list-style-type: none"> (1) 冷暖房時の適正室温の設定（夏季28℃、冬季20℃） (2) 冷暖房の運転時間の管理 (3) クールビズ、ウォームビズの励行 (4) エアコンフィルターのこまめな清掃 (5) 冷暖房中の不必要な窓、扉の開閉の抑制 (6) 空調吹き出し口付近の物品の整理 (7) ブラインド等の活用による冷暖房効率のアップ ○エレベーターの適正な利用 <ul style="list-style-type: none"> (1) 上下階移動の階段利用の励行
燃料使用量の削減の推進	省エネ活動の啓発及び実施	<ul style="list-style-type: none"> ○燃料の適正な利用 <ul style="list-style-type: none"> (1) 冷暖房の適正室温の設定（夏季28℃、冬季20℃） (2) 冷暖房の運転時間の管理の徹底 (3) 冷暖房中の不必要な窓、扉の開閉の抑制 (4) 空調吹き出し口周辺の物品の整理 (5) ブラインド等の活用による冷暖房効率のアップ (6) 石油ストーブ等の定期清掃と設置場所の工夫 (7) 事務室レイアウト変更等に伴う空調エリアの見直しの実施 (8) 熱源としての使用燃料の適正な利用 (9) クールビズ、ウォームビズの励行

平成 年度 目的・目標プログラム一覧表（記入例）

<p>車両燃料使用量の削減等の推進</p>	<p>省エネ活動の啓発及び実施</p>	<p>○環境に配慮した車両の適切な使用 (1) アイドリングストップの励行 (2) 空ぶかし、急発進、急加速の禁止 (3) 車両の日常点検整備の実施による車両の適正な維持管理 (4) 可能な範囲での出張時の相乗り実行による車両の効率的な利用 (5) 長距離の車両使用の際のハイブリット車優先使用の実施による燃料使用量の抑制 (6) 車両導入・更新の際の低燃費車両等導入の推進 (7) 運行の際の不必要な物品の荷おろし実施による燃費の向上 (8) 走行時の窓開放によるクーラー使用の差し控え (9) 効率的な運行経路の走行</p>
<p>廃棄物排出量の削減の推進</p>	<p>3 R活動の啓発及び実施</p>	<p>○廃棄物の分別排出の徹底 (1) 廃棄物の種別計量の徹底による排出量の詳細把握 (2) 分別排出と再資源化についての周知徹底による廃棄物排出量の削減 (3) マイ箸・マイカップ・マイボトル運動の励行 (4) 事務室内のごみ箱数の削減によるごみ減量化の推進 (5) 不用品の処分の際の再生利用可否の考慮 (6) リチャージ可能な乾電池の使用 (7) 使用済み封筒の再利用の促進 (8) 物品全般のリサイクルの促進による廃棄物排出量の削減 (9) 物品の長期的な使用</p>

※上記の一覧にある以外にも、水道使用量の削減や用紙類使用量の削減、グリーン購入の推進など環境負荷の低減のための取組も実践していきましょう。